平成24年度　定例記者懇談会（第３回）の記録

日　時　平成24年12月18日（火）11時
場　所　市長応接室
記者数　12人
同席者　副市長、総務部長、環境部長、教育部長
次　第　１．学校給食市民懇談会について
　　２．ごみの減量化と分別徹底について
　　３．今冬の節電対策について
　　４．その他について

１．学校給食市民懇談会について

説明内容

（市長）

学校給食市民懇談会を１月18日から２月８日までの日程で、市内の中学校10校とであえーる岩見沢、あわせて11か所で開催させていただきたいと考えています。

私、かねてから学校給食の基本理念として、「日本一安全で子どもたちに喜ばれる学校給食」を目指す、ということを申し上げ、新しい学校給食施設の整備に向けた検討を進めているところです。

今回開催する学校給食市民懇談会におきましては、岩見沢市の学校給食の基本的考え方、開かれた学校給食、また食育の推進、調理方式による違いなど、あわせていろいろご説明いたしまして、市民の皆さまからのご意見を参考とさせていただき、今後の学校給食の基本方針、取組みを進めてまいりたいと考えている次第です。

質疑応答

（北海道新聞）

市民懇談会の結果を踏まえて、調理所の形態を決定すると思うのですが、それは早ければ年度内に決めることになるのでしょうか。

（市長）

年度内でなくて、年度を越しての話になると思います。２月８日まで、いろいろご意見をいただいて、それを整理したうえでということになるので、年度を越しての方針の決定になると思います。

（北海道新聞）

予算に設計費を計上するのは、その後ということになりますね。

（市長）

まだ、新年度の予算には出てきません。

（北海道新聞）

着工はいつごろになりそうですか。

（市長）

着工を含めて、最終的な供用開始になる時期を、予算を含めて詰めているところですが、どのような施設の形態であれ、早ければ平成29年４月に新しい学校給食の施設

として供用開始が出来るように整備を進めていきたいと考えています。
今回は、現状の共同調理所の施設の概要ですとか、どういう装備の施設か、ということも含めてご説明しようと思います。
（北海道新聞）
建設には、２年くらいかかるとすれば、着工は、このスケジュールで見ると、平成27年４月ぐらいからになりますか。
（市長）
今回、11か所でご意見をお聴きしたうえで考えます。
（北海道新聞）
市としてはセンター方式で行きたいという方針だと思うのですが、懇談会の中で、またアンケートなどで、是非を問うようなかたちになるのですか。
（市長）
参加いただいた方には、アンケートでご意見などをいただくことも考えていますし、すべてのことを含めての判断になると思います。
（北海道新聞）
イエス、ノーというのではないということですか。
（市長）
施設整備だけでなくて、施設を有効活用するという観点を含めて、やはり食育とか、特に、岩見沢の給食に関心を持っている方に、学校給食にいろいろ関わっていただきたい、そういう思いは私自身、持っています。施設をつくれば、それで終わりではなく、むしろその施設をどう活用していくのか、それから食育を各学校がどういうふうに推進していくのか。そう言ったことで考えていきたい、と思っています。
（北海道新聞）
学校給食安全委員会、運営委員会は、非公開でしたか。開かれた学校給食を考えると、公開にしてもいいのかなと思うのですが、何か支障があるのでしょうか。
（市長）
基本的には私、支障がないと思っています。今後は、そうした会合については、公開の方針でのぞむということで確認しています。
（読売新聞）
市長ご自身のお考えとしては、まだ、給食の施設について、どういうものというイメージ的なもの、例えば、センター方式だとか、分散方式だとかいうのは、まだ固まっていない、ということでよろしいですか。
（市長）
私自身の考え方を今の段階で申し上げると、予断を言ってしまうことになりますが、やはり安全な調理体制をどう確保するのかということと、将来をどうしても見越さなければなりません。児童生徒数がどんどん減っていくなかで、どういう給食が安全で効率的で、おいしいのか。子どもたちに喜ばれる給食を実現できるのか。なおかつ、食育の推進が図れるのか、というようなことが基本になると思います。
（毎日新聞）
なぜ、開催場所は中学だけなのですか。
（市長）

小学校、中学校、それぞれに校区があるわけですが、中学校が 10 校あり、全市内を網羅しているのと、市Ｐ連などの団体には、別に開くこととしています。

（ＮＨＫ）

食育ということで、学校給食に関心のある方に関わっていただくというお話しです。本来、栄養教諭の方がそういうことをされていると思うのですが、どういう関わり方になるのでしょうか。

（市長）

食育の応援ですとか、例えば、学校給食をテーマとした催しをするとか、岩見沢独自のメニューをつくってみるとか、いろいろな関わり方があると思うのです。道内にも食育の推進で頑張っている市町村もあります。そうしたいいところを是非、岩見沢の学校給食にも取り入れていきたいと思います。

（北海道新聞）

確か、市民との懇談の中で、センター方式でも調理ラインを複数化することで、リスクを分散するとおっしゃっていたのですが、イメージがわかないのです。複数化するとどうしてリスクが減るのかを、もう少し具体的に説明していただけますか。

（市長）

自校方式は、調理所の数を増やす訳です。センター方式で、ラインを複数化というのは、施設としてはセンターなんですが、調理のラインを変えることによって、食中毒の発生がラインごとで抑え込めます。

（北海道新聞）

ラインごとにメニューを変えるということですか。

（市長）

それも出来るし、同じメニューであっても、ラインを変えることによって、影響、リスクを限定的に出来る、そういう効能があります。

（北海道新聞）

今でもＡコース、Ｂコースとありますね。

（市長）

それをさらに４つぐらいに増やすことが可能ではないかと思っています。そうすると、かねがね申し上げていますが、センター方式にはセンター方式のメリットもあります。自校方式にもメリットがあります。

特に、食中毒の関連で良く言われるのが、衛生管理のしやすさがどうなのか、ということと合わせて発生したときのリスクをどこで限定的にするのか。それぞれのメリットを何とか一つにすることも知恵の絞りようだなという考え方です。

（北海道新聞）

今のところ、センター方式でありながら、ラインを複数化するということを軸に考えていくのですね。

（市長）

そういうことは、きちんとご説明しようと思っています。

２．ごみの減量化と分別徹底について

説明内容

（市長）
それでは、ごみの減量化についてご説明いたします。お配りした資料には、ごみ減量化に係る緊急対策と書いています。今まで、市民懇談会も開き、議会のご審議もいただきました。そのなかで、何よりもごみの埋め立て量を減らすことが当面の一番大きな課題だと認識をしています。

そういう意味では、制度的に変えるところは変えるわけですが、まず何よりもごみの分別を徹底することが第一歩だと考えています。そこで、1点目に書いているとおり、ごみ分別チラシの全戸配布を、まず緊急実施するということで、昨日12月17日から行い、年内には全戸に配布する予定をしています。

2点目は、事業所の分別を徹底することです。これにつきましては、啓発文書を市内の事業所、約2,200件に年内中に発送するとともに、事業所を戸別訪問し、あわせて今年の冬の「節電」の協力もありますので、ごみ減量化の啓発を年内から順次行ってまいります。

3点目は、いま出来ることからしっかりやろう、ということで、公共施設における資源回収ボックスの設置を考えています。回収品目の拡大を順次進めていくということを考えています。

先ほども述べたように、ごみの減量化につきましては、分別を徹底するということがまず基本になってきます。それが岩見沢のごみの分別の状況から見ても、一番大事になると思っています。

そのためには、市民の皆様、また事業所の皆様のご協力が必要でもあります。その点につきまして、啓発活動に取り組んでいきたいと考えています。これも、私自身、また担当部もそうですが、やはり危機意識をもって進めていきたいと思っています。また、順次、状況を勘案しながら、色々な方策を考えていきたいと思っています。

質疑応答

（北海道新聞）
事業所への啓発ということですが、これには回収業者も入るのですか。

（市長）
基本は発生業者になります。

（北海道新聞）
事業者で分別しても、回収業者がいっしょにしてしまう、というケースが結構あると思うのですが。

（市長）
事業系のごみですから、事業者の責任で搬入してもらう訳ですが、その際、回収業者の方が、そのままいっしょにしてしまうケースがあります。それを分別の段階で、まず、きちっと種分けをしてもらうというのが基本になります。

回収業者の方のお話しを聞きますと、出されてしまったものを、もっと分別して下さいとは、なかなか言えないとか、どうしても持っていかざるを得ないとか、そう言った実情があるようにもお聞きしています。回収業者の方と十分連携を図って参りますが、まず、発生する事業所で、分別を徹底してもらう。そうすれば、回収業者の方も分別をしながらスムーズに回収ができます。折角分別したものをごっちゃにしてし

まうという事態は避けたいと思います。

（北海道新聞）

札幌では、事業者に対して厳しく指導をしていて、分別が徹底しているようなのですが、岩見沢では何故そういうことが出来ないのですか。

（市長）

それも当然視野に入れています。そういう実態がわかった時点で、厳重に指導を徹底していきたいと考えています。

（北海道新聞）

指導していきたいというのは、法に基づいての指導ですか。

（市長）

これは、法に基づいての指導ではなく、事実上の指導になりますね。

（環境部長）

現実の問題として、事業系の一般廃棄物は、本来であれば事業者自身が守らなくてはいけないのですが、実態として、一般家庭のごみステーションに出されるということもあり、これについては、法律で規定されているので、法律に則り、きちんと指導していこうとしています。

（市長）

記者さんがおっしゃりたいのは、折角、事業所で分別してあるのに、収集業者の都合で、一つにまとめて、結果として、分別していないのと同じになってしまうことですね。これは分別についてなので、法に基づいての指導ということは、現段階では出来ないだろうと考えています。

最終的に行うとすれば、一定の強制力をもった措置の制度をつくらなければならないということにもなるかと思います。ただそれは、事実上、私どもの方で回収に当たって、回収業者の方に、協力依頼もしくは指導をするということを考えていきたい。実質上の法にもとづく、ということではなくてです。

（北海道新聞）

有料化の論議についてですが、市民懇談会で相応の数の有料化に賛成という意見がありまして、それを踏まえて、検討委員会の方でも年明けにも答申を示すと思うのですが、それを受けて市としての判断を年度内に示すということになるのでしょうか。

あるいは、まだ市民懇談会の開催の数が少ないので、もう少し幅広く市民の意見を聞いたうえでの判断になるのか、それとも検討委員会の意見が出て来て判断するのか、有料化の判断の時期については、どのようにお考えでしょうか。

（市長）

今回、第４回定例議会で、中間処理施設の工事請負契約を議決いただいたので、そのスケジュールと合わせて有料化のスケジュールも組み込んで、全体像を、まずお示ししたいと考えています。私自身、市民懇談会でいろいろお話しを聞かせていただいたなかで、有料化によっての減量化は、とても効果があるし、是非、やってほしい、やるべきだ、というご意見も多々ありました。

岩見沢市の現状は、他の近隣の市町村と比べても、無料ということで、自分たちが一生懸命減量しているけれど、結局、他の市町村からごみが持ち込まれているのではないか、というご指摘も多々いただきました。そういったことを中間処理施設の建設

のスケジュールと合わせて、整理していきたい、組み込んでいきたいと考えています。

（北海道新聞）

建設スケジュールと合わせて組み込むというのは、要するに、有料化の判断の時期は、いつぐらいになるのですか。

（市長）

全体のスケジュールを示したいと申し上げました。ごみの処理施設自体は、平成 27 年４月の供用開始ですが、その前段で施設の調整などのスケジュールも入ってまいります。そういったことも含めて、いつの時点で有料化をすると一番スムーズに、また、不法投棄などの問題も含めて、スムーズに移行できるのか、新しい焼却施設の稼働につなげていけるのか。また、新しい焼却施設が稼働するときには、分別の仕方も変わる訳ですし、そういった観点でどうなのかということをすべて組み込んだうえでスケジュールを固めていきたいと思っています。

そうなると、有料化を、例えば、焼却施設の稼働に合わせてやるのが収集システムを含めて一番いいのか、それとも、前倒しをしながらごみの減量化と合わせて対策をとっていくのがいいのか、そこら辺りは、これからの議論になると思っています。

（北海道新聞）

有料化は、するのですか。

（市長）

有料化をむしろすべきだというご意見が多かったのが、私の率直な考えです。ただ現段階では、有料化をどうするということよりも、まず分別を徹底するということが第一に優先になります。

（北海道新聞）

資料の３点目、資源回収ボックスの設置、市役所・支所等とあるのですが、何か所ぐらいに設けるのですか。

（市長）

いま想定しているのは、市役所、両支所、その他に幌向出張所、であえーる、総合体育館、スポーツセンター、温水プール、市民会館まなみーる、図書館、婦人会館、北村温泉、高齢者福祉センター、広域総合福祉センターなど、市民の方が多くご利用いただける施設を主に考えています。

（北海道新聞）

いまのお話しだと、10 ヶ所ぐらいになりますか。

（市長）

市役所と両支所を含めて 14 か所になります。市役所と両支所については、年内に設置を終えたい。残りの 11 か所については、施設の方と協議しながら順次拡大していくことになります。

３．今冬の節電対策について

説明内容

（市長）

それでは、今年の冬の節電対策についてご説明させていただきます。

まず、夏の節電につきまして、全道ベースでいくと目標の 7%以上を達成、というこ

とです。北電の方では管内の達成状況は細かく公表していませんが、岩見沢市におきましては、節電対策推進本部を設けて、市の庁舎をはじめとして公共施設の節電に取り組み、平成 22 年度と比較しますと 7.8%を達成でき、それぞれ市民のみなさまにも大変ご協力いただき、改めてお礼を申し上げる次第です。

そこで、今年の冬の節電ですが、市の取り組みといたしましては、夏に行いました節電対策に加えまして、暖房については、室温を 19℃程度に設定するとともに、ウォームビズの取り組みも行っているところです。

また、電力需給がひっ迫するような状況を発生させないためにも、市民の皆様には、広報紙などで節電のご協力を呼びかけるとともに、事業所へもごみの分別徹底とあわせて節電のご協力をお願いすることとしています。

かといって、この冬ですので、過度な節電で健康に支障をきたすということにはなりませんので、できる範囲での節電にご協力をお願いしようと思っています。

質疑応答

特になし。

４．その他について（記者からのご質問）

質疑応答

（北海道新聞）

衆議院選挙の結果の受け止めと、10 区の方から稲津さんと比例で渡辺さんという２人の衆議院議員が誕生し、その期待を含めてお願いします。

（市長）

やはり、稲津さんも渡辺さんも、それぞれ岩見沢のことを含めて空知の実情には、大変お詳しい方々ですから、そうした意味では、国政の場でご活躍いただくとともに、いろいろ地方にも目配りいただき、地域の発展こそが国の発展のもとだと、お２人ともおっしゃっているので、そう言った点では大変期待しています。

（北海道新聞）

稲津さんに対しては、いろいろな政策を打ち出していますが、何か協力できるもの、連携できるものは、あるのでしょうか。

（市長）

まだ、これからの話だと思いますが、おっしゃっていた中で、防災減災という施設の維持補修を含めて、いろいろお考えだとお聞きしています。やはり安全・安心の確保というのは、国、地方を問わず一番の課題でもあります。

（北海道新聞）

お２人に何か要望したいことはありますか。

（市長）

それは、これからになります。節目、節目で、市としてご要望申し上げるものは、していきたいと考えています。

（北海道新聞）

当選後、まだ接触はされていないのですか。

（市長）

当確が出た際には、お邪魔し、渡辺先生とはお会いできなかったのですが、稲津先生には、お祝いを述べて参りました。

（読売新聞）

多分、自民党を中心とした政権が出来てくると思うのですが、そこに対する期待というか、地方の目線から最も期待することは何ですか。

（市長）

師走の選挙ということで予算編成が遅れています。地方財政計画も、本来であれば出来ていていい時期なのですが、それがまだ年明け、20 日前後ぐらいにずれ込むことになります。これは、日本全国どこの自治体にも大きく影響されることですので、やはり地方の行政が滞ることのないような財源措置、そういった方向性を、きちんと予算を通して示していただきたいと思っています。

（北海道新聞）

雪の関係ですが、本格的な降雪に入って１ヶ月以上たっています。現時点では、除雪作業は順調に進んでいるのかどうか、それと市民からの苦情の状況はどうですか。

（市長）

当初、雪の降り方が、朝方から降っていることがありました。夜から降っているのであれば、降雪の見込みを含めて、だいたい朝２時ぐらいから、業者の方が作業に出るわけですが、朝方に降り始めて積もり出すというケースが、何日かあったので、そういった意味ではご不便をかけたケースがあり、また路面が荒れているということもあったと思います。

現状で、平年よりも雪は多く降っているわけですが、幸いなことに積雪は、昨年と比べて少なく、降雪量も全然違うという状況です。もちろん、これから本格化してくるので、出来るだけ早め早めの対応を心掛けていきたいと思っています。

また、今年は総合的な雪対策ということで、情報につきましても、出来るだけ早めにお知らせするということで、市役所本庁もそうですが、少しは市民の皆様に見ていただけるものを掲示しています。

（読売新聞）

道路の排雪作業に当たって、通行止め情報を出しているのですが、当初懸念されていたように、それに合わせて雪が出されるトラブルなどはありませんか。

（市長）

それは、直接、聞いていません。まだ積雪が 54 センチですから、安全確保で排雪し、運搬路の確保をしていますが、作業に支障を来すという報告は受けていません。雪は、これからがいよいよ本番ですので、きちんと対応をしていきたいと思います。

（注）記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています（作成：岩見沢市秘書課広報係）。